

まずは、日ごろの心がけ

11月6日(土)早朝、市内で津波被害が最も心配される池尻町で、自主防災会の主催による津波避難訓練が実施され、参加した住民約150人は、津波警報発令時の避難経路や避難場所の確認などを行いました。いざというとき役立つのは、日ごろからの積み重ね。皆さんも、家族で避難場所を確認したり、防災について話し合ったりしましょう。



薄暗い中、非常持出袋を背負って避難場所に集まる皆さん

福井信廣さん(池尻地区自主防災会長)

先日の津波警報では自主避難しました。万一のときには、まず人命優先ですね。今回のような訓練の積み重ねが大切なので、住民の理解と協力が不可欠だと思います。また、市にも一層の支援をお願いしたいと思います。



参加者の声



河合敬子さん(左)・杉原秀美さん(右)

新潟県中越地震の様子をテレビで観たり、今日の訓練に参加したりして、日ごろから防災に取り組まなければと、しみじみ感じました。



杉原光弘さん(池尻地区防災リーダー)

各地で地震が起きているので、大勢参加して、みんな真剣に取り組んでくれました。池尻は津波の危険が高いので、日ごろの心がけが特に大切です。

津波発生！ そのとき、どうする？

市	市民
災害対策本部を設置します。 	1 強い地震(震度4以上)を感じたときや、弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは津波の襲来が予想されますので、直ちに海浜から離れ、急いで高台などへ避難しましょう。
防災行政無線、地域防災無線、広報車などにより避難勧告・指示を行い、避難所を開設します。	2 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な高台へ避難しましょう。
津波浸水危険地域堤外などを中心に海岸線の監視・巡回を行い、海水浴客、釣人、サーファーなどへの避難勧告、漁船の避難開始や漁具、養殖施設などの流出防止対策の実施要請や、要援護者対策に備え、自主防災組織への活動要請を行います。	3 正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などを通じて入手しましょう。
愛知県へ状況を報告し、県は市が行う避難対策について全体の状況把握に努め、必要な連絡調整を行うとともに、津波からの迅速・円滑な避難などについて、報道機関の協力を得て市民や観光客に対し広報活動を行います。	4 津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険ですので控えましょう。 
被害が発生した場合、現場確認後に応急対策を行います。	5 津波は繰り返し襲ってくるので、警報や注意報の解除までは気をゆるめないようにしましょう。